



今年度初めての企画給食は「ブルーベリー」。

今日の給食では、真田地域のブルーベリーを使ったジャムが使用されています。

これから旬を迎えるブルーベリーについて、摘み取り体験や真田地域の産地化のとりくみについて、ご紹介します。

■ブルーベリー狩りに行ってみよう！

真田地域には、ブルーベリー狩りが楽しめる観光農園が5団体あります。
7月上旬から8月上旬にかけて、ブルーベリーの摘み取り体験ができますよ。

【内容】
・食べ放題 1人 600円
・お持ち帰りの場合、1kg1,600円

※価格は、変更になる場合もございます。
詳しくは、下記お問い合わせ先にて
ご確認ください。

【摘み取り体験のお問い合わせ先】

(代表)ゆきむら夢工房：0268-72-2204



※ブルーベリーの木は低い位置にも実をつけるので、小さなお子様でも摘み取りを楽しめます♪

🗨️生産者の声

ブルーベリーは農薬を使わないで栽培ができます。真田地域で作り始めた頃は、栽培方法がわからず苦労しましたが、今では 35 戸の農家で栽培されています。スズメなどの鳥がブルーベリーを好むので、網を張って食べられないように対策しています。観光農園もありますので、ご家族の皆さんでお出かけください。真田地域では、ほかにもいろいろな作物が栽培されています。小中学生の皆さんが、農業に関心を持ってくると大変うれしいです。

＼生産者の声を“動画”で聞いてみよう！／



※上田市真田地域では、ブルーベリーの生産が盛んです。今日の給食で使用されているブルーベリーは、「真田特産果樹研究会」の生産者が栽培したもので、この研究会が中心となって産地化に取り組んできました。これまでの歩みについて、お聞きました。

■「真田特産果樹研究会」ってどんな活動をしているの？

真田地域の農業を盛り上げるために、地域の特産となる果物の研究や、新しい生産者のサポートなどを行っています。研究会ができた25年前(平成12年)は、生産者の高齢化や後継者不足により、りんごや桃の生産量が減り、荒廃地(農業がされないで荒れた土地)が増えてきていました。研究会では、この地域の農業を守っていくために、どんな農産物が土地に合っているのか調べるため、あんず、くわの実、梅、山ぶどう、ブルーベリー、山すもも、ぎんなんなど様々な果物に挑戦してきました。土づくりや肥料など工夫することで、真田地域では、ブルーベリーが栽培に適していることが分かりました。

この人が教えてくれたよ！



真田産業観光課 農業支援センター
専任推進員 武捨さん

■ブルーベリーが真田地域の特産品になるまで①

現在、真田地域でブルーベリー狩りが楽しめる観光農園は5団体、会員数35名、作付面積が41haです。ここまで大きくなった背景には、平成20年ごろ、日本全国で「観光農園」がブームとなったことが関係しています。平成17年～22年までの5年間に、観光農園を経営する団体は、7,579→8,768へと15.7%も増えています。研究会が設立したのは、平成12年。すでに観光農園に取り組んでいた真田地域では、世の中の後押しもあり、ブルーベリーを栽培する生産者が増えていきました。



■ブルーベリーが真田地域の特産品になるまで②

収穫されたブルーベリーは、はじめの頃、真田地域の直売所や観光案内所で販売されていました。だんだん収穫できる量が増えるにつれて、新しい販売先を見つけることが必要になりましたが、そこで大きな助けになったのが、上田市の銘菓「みずず飴」を製造している「飯島商店」さんの存在です。飯島商店さんのブルーベリージャムの原料に、真田地域のブルーベリーを使用してもらえることになり、産地化に向けて強力なパートナーとなりました。そうして完成したブルーベリージャムが市内で販売されることにより、市民の皆さんが真田産ブルーベリーを知るきっかけにもなりました。また、生産者の皆さんは、真田地域の保育園児を対象に収穫体験に招待したり、真田地域の小中学校において学校給食に使用してもらうなど、地域の方に知ってもらうことにも力をいれています。行政も、農道(畑に行くまでの道)の整備をしたり、苗木や鳥よけのネット(鳥は、ブルーベリーが大好きです)を購入する時に補助金を出すなど産地化を応援しました。こうして、世の中の動きや協力者の存在、生産者の努力によって、ブルーベリーは真田地域を代表する農産物として定着してきました。



飯島商店(店舗外観)
上田市中央1丁目



ちなみに...

● ブルーベリーは、市内直売所で購入することができます！

※取り扱いは店舗により
異なります。右QRより、
お問い合わせください。

